

令和7年度 青森県総合社会教育センター運営協議会 議事録（要旨）

1 日 時

令和7年7月22日（火）10時00分～12時00分

2 場 所

青森県総合社会教育センター4階 第2教材開発室

3 議 題

- (1) 令和7年度事業計画について
- (2) 主な事業の取組概要について
 - ① 生涯学習・社会教育関係職員研修講座
 - ② パワフルAOMORI！創造塾
 - ③ 家庭教育支援関連事業
 - ④ あおもり県民カレッジ運営事業（指定管理者）

4 出席者

〔委 員〕

小山田委員、秋田委員、菊地委員、高橋委員、木村委員、沼田委員、
和田委員、工藤（裕）委員、金澤委員、工藤（清）委員

〔県総合社会教育センター〕

白戸所長、今泉副所長、崎野総務課長、木村総務課副課長、
新山育成研修課長、佐藤育成研修課副課長、眞嶋社会教育主事、
川嶋教育活動支援課長、佐々木教育活動支援課副課長、高橋社会教育主事
〔学び・生かすあおもりグループ（指定管理者）〕

渡部事務局長

5 議事録

《案件（1）、（2）①②について》

【委 員】

先程、パワフルAOMORI！の取組みや今年の活動の紹介などを聞いて、よくまとめられているし、動画もわかりやすくていいと思った。事前に配られた資料の中の「てのひら」や「響」には何人かの塾生が紹介されていて、パワフルAOMORI！の塾生が、県内のあちこちで活動しているのを見て、すごいなと思っている。昨年8月24日のパワフルAOMORI！の交流会の時も、

特に28期からとても活動が活発化していて、28期以降の約40人程度のメンバーが集まって、発表会や、立食のような形で会議室で懇親会をして、とても盛り上がった。青森県の各地域で機運が高まったので、今年もこのような形で取組んだ方々と、また縦のつながりで先輩のパワフルの塾生と繋がって、各地で取組みが進んでいけばいいなと思っている。元気をもらえるとと思っている。

【委員】

生涯学習・社会教育関係職員の研修の講座について、新規の伴走型の支援として既に9件の申込みの実績があったということだが、よりニーズに沿った研修や講座として、これからもっと広がっていけばいいなと思っている。

質問ですが、実際に9件の申込みがあったということだが、受付期間やどのような形で皆さん実施するなど、全体的なことについて伺いたい。

【事務局】

伴走型支援の受付期間は、通年となっている。伴走型支援に申込みがあれば、申込書をもとに電話やメール、面談等を行い、相談内容を改めてヒアリングしている。実際に申込みのあった教育委員会へ出向いたり、Zoomで相談を受けたりした後、研修会当日は会場の後ろから見守る、などの対応をしている。

現在、公民館職員研修について相談を受けているが、これは全3回なので、第1回目については教育委員会へヒアリングに行ったり、電話やメール等で相談を受けたりした。熟議を取り入れた参加型の研修をやってみたいということだったので、先日、私が講師になってファシリテーターをした。それを受けて、アンケート等も参考にして、第2回目、第3回目について、引き続き相談をしながら、横に並んで進めていきたいと考えている。

【委員】

申込みのあった所に合わせて、フェーズなども進めながら行っているということなので、これからもどんどん広まっていけばいいなと思う。職員の皆さんの負担も考えながらということになると思うが、本当にニーズに添ってどんどんやっていただけたらいいなと思う。

【委員】

今の伴走型支援についてですが、申込み者は、実際に小中学校で授業を行っているが、各市町村の生涯学習社会教育担当課から申込みがあれば、それを受けるという形なのか。

【事務局】

対象者が、市町村教育委員会、公民館とあるが、社会教育に関わっている部署ではなくても、社会教育に関係のある内容であれば受けている。ですから、学校から直接連絡が来ることもある。

【委員】

この伴走型支援の周知については、どのような形で行っているのか。

【事務局】

周知については、資料の4-2の6ページ「こんなお悩みありませんか」という水色のチラシを、社会教育の40市町村会議で配布したり、当センターのホームページにも載せるなどの方法で行っている。ロコミだけで9件の申込みがあった。

【委員】

たくさんの要望があれば応えていくのは大変だと思うが、ニーズもあり、寄り添った取組みだと思うので、ワーク・ライフ・バランスも考えながら頑張っていたらと思う。

【委員】

生涯学習・社会教育研修講座の方ですが、関心が多々あるということで、学校現場から関心のある方が受けたいということであればOKということだが、コミュニティ・スクールが浸透して5年くらい経っていて、各学校では、まだまだコミュニティ・スクールに対しての考え方とか、やり方など、一般の先生方にはなかなか周知されていないということが多々あると思うので、この研修の中に学校関係者を含めて、これから出していくものなのかどうか伺いたい。私は絶対に必要だと思っている。

例えば、各教育事務所で出されている、「西北の教育」とか「中南の教育」などの冊子では、必ず社会教育の分野の内容が入っているので、市町村教育委員会、公民館活動だけではなく、学校関係者の中からもどんどん参加していければと思うので、このことについてどのように考えているか伺いたい。

【事務局】

生涯学習課では、学校職員の方々が受けることができる研修会を6地区で開催している。その上で、今お話があったように、学校職員の方も必要だと思うので、生涯学習課、社会教育センター、教育事務所とも相談しながら進めていく

いと思う。今伺った御意見を当センターの方で検討させていただきたいと思う。

【事務局】

この伴走型支援をやることになった経緯は、まず、当センターでは今までも総論的な研修は行ってきた。地域学校協働活動の研修ということで、県内各地から関係職員の皆さんが集まって研修をするが、総論は皆さんわかっている。仕組みも分かっているし、制度も分かっているけれども、それぞれの地域で状況が異なっていて、事務所単位でも違うし、市町村の教育委員会単位でも違うし、学校区単位でも違う。今までやってきた地域と学校との協力関係は、それぞれ違っていて、活用できる人材もそれぞれ違うので、何をやるにしてもオーダーメイドに近い形で進めていかなければいけない中で、具体的な情報や知識が欲しいというニーズがあった。そのため、これはそれぞれ個別に相談があったところに対応していくのが一番早道ではないかということで、伴走型という形で支援していこうとスタートした。実際にやってみないとどのような相談が来るかわからなかったが、やってみたら春先に一度に9件来て、今一旦落ち着いている。

担当者が新しくなって、研修をどのようにしたらいいかわからないとか、地域学校協働活動、コミュニティ・スクールの進め方をどのようにしたらいいかわからない、というような御質問とか、人が変わると体制も変わるということもあり、様子を見ながら私たちも順番に進めていきたいと思っている。

できるだけ地元の皆さんに寄り添って進めていきたいと思っているので、人が足りなくなればその分業務の効率化を図り、伴走型支援に人を振り向けるようなことを考えながらやっていきたいと思っている。

学校関係の方も、生涯学習課で、教頭先生や校長先生をメインにした研修をやっているが、やはり実際となると、うちの学校でやるためにはどうしたらいいのかなど、総論的な研修では賄いきれないところもあると思うので、私たちの出番かなと思っている。これから様子を見ながら、ニーズに応じていろいろやっていきたいと思っている。

【委員】

私は青森市立浦町中学校の浦町中学校区コミュニティ・スクールの運営協議会に入っていて、所長がおっしゃったとおり、青森市でも、また、この社会教育センターでも様々な研修会で、どのように進めていくかという場を設けているが、市町村によって、教育委員会によって、また個々のコミュニティ・スクールの学校によって、本当に様々だと思う。今お話を伺った限り、この伴走型支援というのは、今は要望があった個別、具体的に伴走をした経験を積み重ねていって、その上で振り返ったところで、次はこれを続けるか、あるいはもう少し大き

い括りの、何か事業に仕上げていくかという実践と、それからその先の検証がとりあえずの目標になるのではないかなと思う。

《案件（２）③について》

【委員】

先日、アドバイザーの派遣依頼をお受けした時に、3日前から体調不良で参加できなくなったので、お断りの御連絡をした。ピンチヒッターをお互いに探してみようということになり、その時私は一緒に悩んだり笑ったりしながら活動した、熱い思いを持った人たちの顔がすぐに浮かんだ。そして、時間があつたら行ってあげるという返事をいただいた。そういう力を引き出してくれる、素晴らしい事業だと思って今までやってきた。

その時、ピンチヒッターでやってくれた方が、人数は少なかったけれども、あるお母さんから、「私は自分だけじゃないんだな」って言っていたと聞いた。これが全てだと思った。若いお母さん方は、様々な情報があり、感性も豊かだが、生で顔を見て、出会って感じ合うということは、一番大切なことだと改めて思った。あるお母さんは、お子さんが小学校の時からずっと不登校で悩んでいて、今中学校1年で、今までずっといろいろなことを言われて本当に悩んできたお母さんが、自分のこどもは学校に行かなくても生きていける、違う方法があるんだということが分かったと言っていた。お母さん方にとって希望と本当に生きる力になっていると、最近感じた。家庭教育は、本当に素晴らしいし、こうやって力を入れてくれているので、これからもいろいろなことで頑張っていきたいと、県内の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っている。

【委員】

家庭教育がとても大切なのはもちろんわかるが、現場にいと、このお母さんは絶対悩んでるなって思っている、「家庭に悩みはございません」と言う。お子さんを見ると、ないわけがないと思うが、私たちには伝えたくないんだなと思う。だから、このようなチラシがあると、この二次元コードとか電話で相談できる、ということ伝えることによって、私たちに知られたくないことでも、こちらの方に相談ができるというシステムがあるということをお母さんたちに伝えたいと思う。

また、不登校のことについても、不登校のお母さんたちはものすごく悩んでいる。そうすると、今まで正社員で仕事をしていたけれども、こどもが不登校になったことによって、パートでなければ働けないとか、家庭の事情がとても変わってしまう。そのような内容もすべて、お母さんが一人で引き受けて、そしてとても悩んでいるお母さんにたくさん会ってきた。私たちが伝えることは限ら

れているので、このような所に相談して、解決を導いたらというようにお伝えできるし、もっと子育てネットが普及してほしいと思う。

不登校のこどもをお持ちのお母さんたちから相談を受けた時に、子育て支援センター、こども家庭支援センターが各地にあり、そこに学校の先生から紹介してもらい、そちらへ繋げることができた。このようなことも中々、知り得ない情報なので、こういうことをもっと情報として皆さんにお伝えする術はないかなと日々考えている。もっとたくさんの方々に、支援センターの役目とか、子育てネットにこのように繋げると、いろいろなアドバイスがもらえとか、専門家がたくさんお話ししてくれるというようなことは、もっと周知したいと、現場の者として思う。

【委員】

今後の方向性の中にも書いていたが、このような相談窓口があるということ、教育部局に限らず福祉部局でもたくさん持っているということ、いかに周知して本当にニーズのある方に繋げるかということが大切だと思うので、その辺りの取組みについても、要望として、社教センターで検討をさらにお願ひしたいと思う。

《案件（２）その他について》

【委員】

毎回この会議に参加して、非常に小さな取組み、県内全体に下支えをする取組みがとても良いことだと感心している。一つだけ質問ですが、パワフルAOMORI！で外国人がこれまでに入っていたことはあるか。

【事務局】

28期ぐらいから確認したが、外国人が今まで参加したことはなかった。

【委員】

地域おこし協力隊の方が結構いて、多分、地域の中で意識がとても高く、やる気のある人たちが関わっていると思うが、恐らくこれからは、人口減少を支えるのは外国人になってくるということが、いろいろな資料に出ているので、そういう意味でも、外国人の方々が、高い意識を持って青森に住みたいと思、これからもっともっと増えていく中で、そのような人たちにも入っていただければ、塾生の方々も、とても視野が広がることになると思うし、またその活動内容がどんどん魅力的になっていくと思うので、グローバルに展開できる未来を頭の中で想像しながら、少しずつ入れていければ、もっともっと広がると思う。